

## 『神の聖なる天使たち』の訂正

2016.2.23

下記の青字の箇所には誤りがありました。赤字のように訂正いたしまして、深くお詫び申し上げます。

[182 頁 5 行目からの段落]

(誤)

しかしながら、少なくともエノク語のアルファベットという着想じたいは、ディーあるいはケリーの独創、発明ではなかった。錬金術とカバラを結合させたジョヴァンニ・パンテオがディーに及ぼした影響については本書第七章で触れたが、パンテオの主著でディーが架蔵していた『錬金術と対抗するウォアルカドゥミア』（一五三〇）には、「**エノク語のアルファベット**」を謳<sup>うた</sup>うものが印刷されているからである<sup>\*18</sup>（184 頁、図版 9D、9E、9F）。ただし、**このアルファベットも天使がディーに与えたものとは似ておらず、むしろ、アグリッパが「河の流れの文字（scriptura transitus fluuii）」と称したヘブライ語の「太古の書法」との類同性が窺えよう<sup>\*19</sup>**（185 頁、図版 9G）。

(正)

しかしながら、少なくともエノク語のアルファベットという着想じたいは、ディーあるいはケリーの独創、発明ではなかった。錬金術とカバラを結合させたジョヴァンニ・パンテオがディーに及ぼした影響については本書第七章で触れたが、パンテオの主著でディーが架蔵していた『錬金術と対抗するウォアルカドゥミア』（一五三〇）には、**アブラハムのアルファベットと並んでエノクのアルファベット**を謳<sup>うた</sup>うものが印刷されているからである<sup>\*18</sup>（184 頁、図版 9D、9E、9F）。ただし、**後者は天使がディーに与えたものとさほど似ておらず、前者はアグリッパが「河の流れの文字（scriptura transitus fluuii）」と称したヘブライ語の「太古の書法」と基本的に同一である<sup>\*19</sup>**（185 頁、図版 9G）。

[184 頁 図版キャプション]

(誤)

図版9D-9F はジョヴァンニ・パンテオの**エノク語**アルファベット

(正)

図版9D-9F はジョヴァンニ・パンテオの**アブラハムとエノク**のアルファベット